

# IBM i World 2018

IBM i とともにAI時代の勝者へ。次なる30年へ向け、今スタート！



IBM

# IBM i とともにAI時代の勝者へ。 次なる30年へ向け、今スタート！

2018年 7月 3日 @ 東京 & 全世界生中継 / 7月 6日 @ 大阪

日本アイ・ビー・エム株式会社

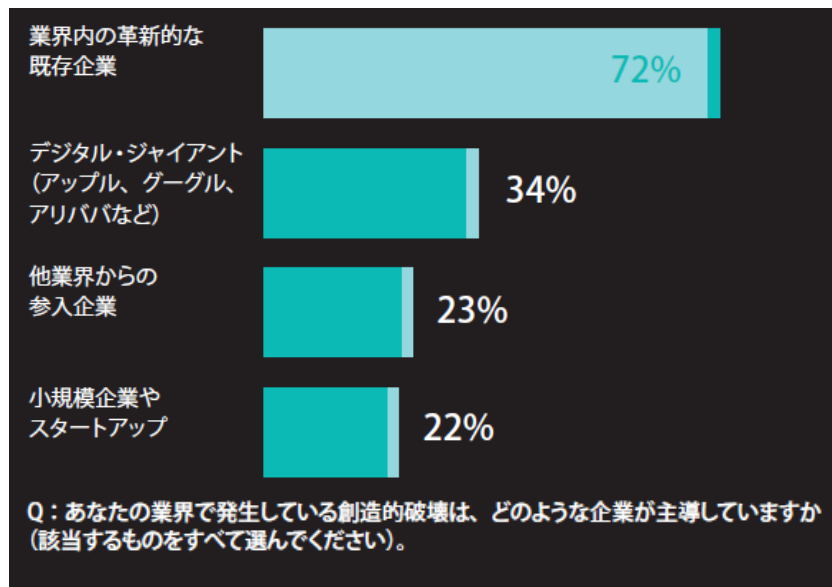
システムズ・ハードウェア事業本部 サーバーシステム事業部 コグニティブ・システム事業開発

IBM i 統括部長 久野 朗

# CxOは、どのようにお考えか

## - 守成 (あるいは守勢) からの反攻

革新的な既存企業が、創造的破壊を主導する

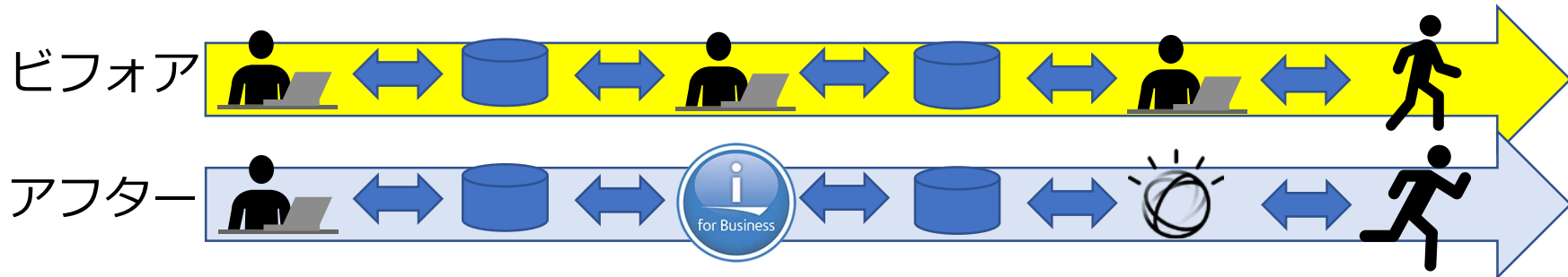


創造的破壊 (既存企業が本領発揮) のために

- 顧客体験を通じた信頼関係の確立
- プラットフォーム型ビジネスモデル
- イノベーション実践のためのアジリティー

出典: <http://ibm.biz/BdYBaZ>

# 創造的破壊には真のリアルタイム・オペレーションによる アジリティーが必要

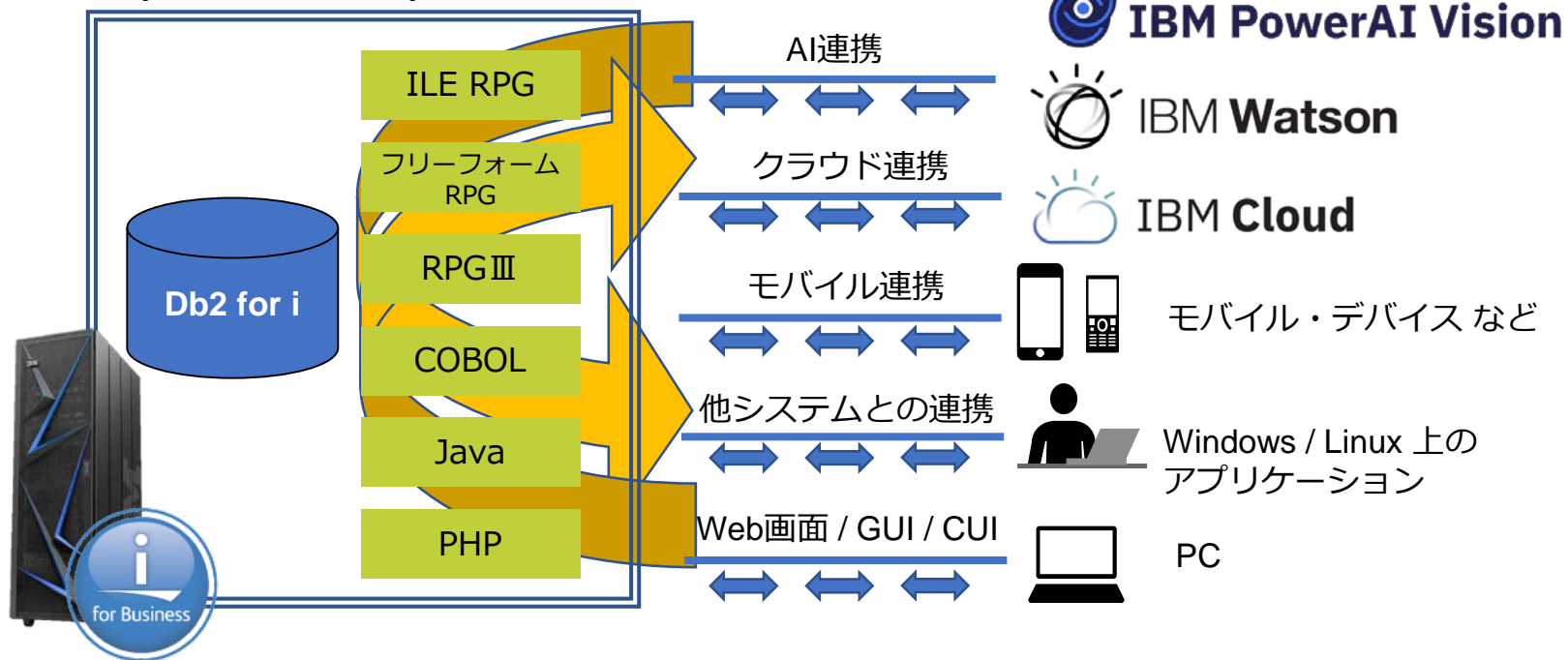


## 水平統合

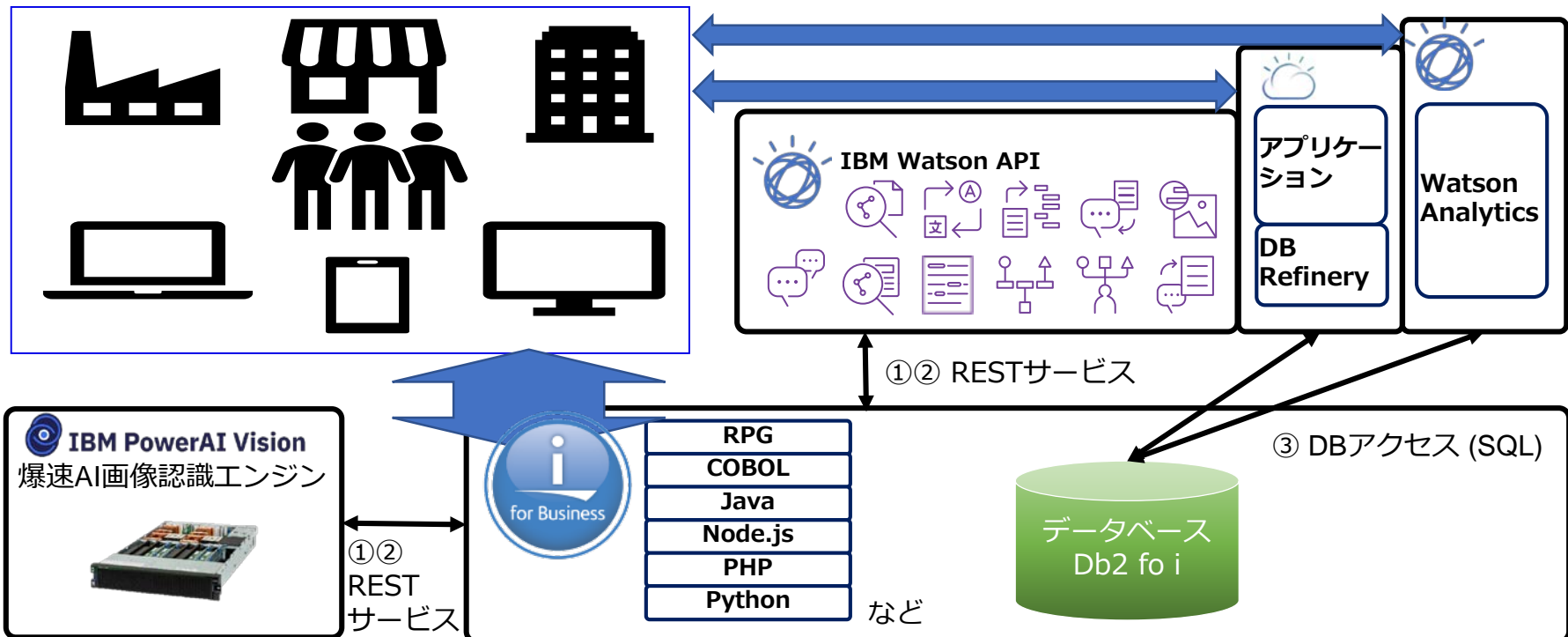


# IBM i は、貴社リアルタイムビジネスのハブとなります

IBM i (基幹システム)



# IBM i はAIリアルタイム連携のための仕組みを標準装備



- ① RPG/COBOL/JAVAからWatsonサービスやBluemix各種サービスをREST APIで呼び出し
- ② RPG/COBOL/JAVAなどの各種サービスをREST APIで呼び出し
- ③ Bluemix各種サービス (Watson Analyticsを含む) からIBM i のDBにSQLでアクセス

# リアルタイム連携すれば、現場が変わる

## 例えば、 音声認識 + チャットボットによる移動時間の生産性向上



これから訪問する  
A社の取引情報を教えて

A社の受注実績は・・・



音声認識 & チャットボット + 基幹システム

# リアルタイム連携すれば、現場が変わる

例えば、気象情報と基幹データを組み合わせ、AIで学習  
人員、発注量といった経営資源を最適化

## 気象情報

例. 体感温度



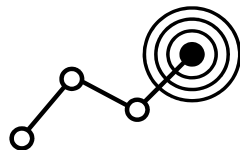
## 基幹データ

例. 売上データ



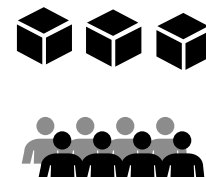
## 業務影響予測

例. 需要予測

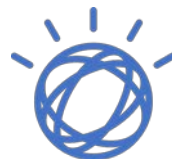


## 資源最適化

例. 発注量、  
人員配置



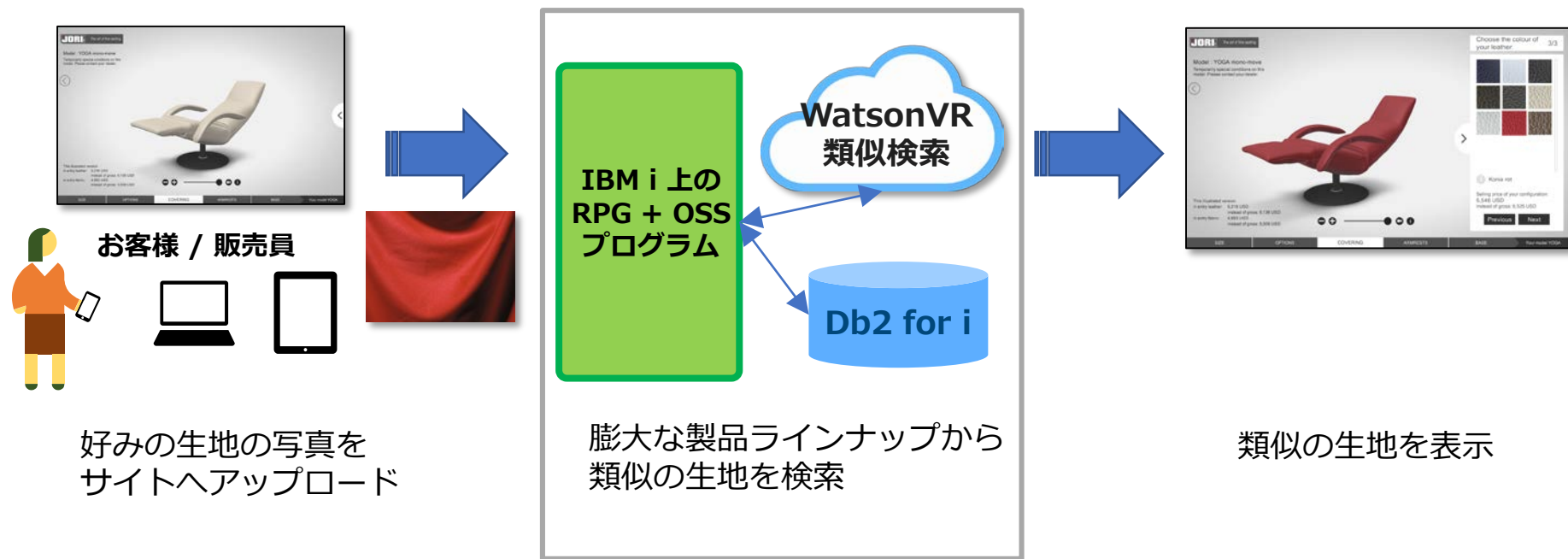
The  
Weather  
Company  
An IBM Business



# リアルタイム連携すれば、現場が変わる

## 例えば、家具メーカーJORI様

### 家具シミュレーターと IBM i を連携





# リアルタイム連携すれば、現場が変わる

## 例えば、入出力が多様化するモバイルデバイス

モバイル・テクノロジーを活用した  
業務変革事例



製造担当者

製造工程報告



物流担当者

ピッキング作業



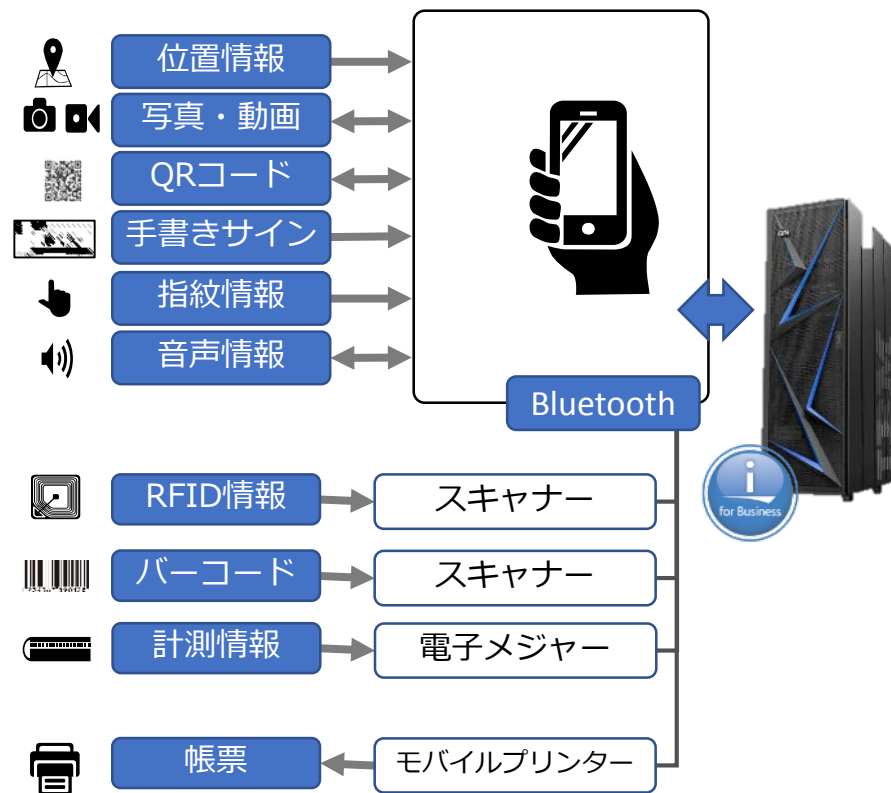
保守作業員

社内報告・伝票発行



営業担当

おもてなしの向上



# リアルタイム連携すれば、現場が変わる

## 例えば、ロボティクスによる定型・定例操作の自動化

**定型・定例操作の例：** 基幹システムの更新・参照処理  
Excel操作、Eメール発信・参照、ファイル操作  
Webブラウザ上の処理 など



人材確保が困難

属人的な業務手順が発生



業務処理の効率化

業務手順を集中管理

# リアルタイム連携の実現には、 IT部門の働き方改革と業務変革

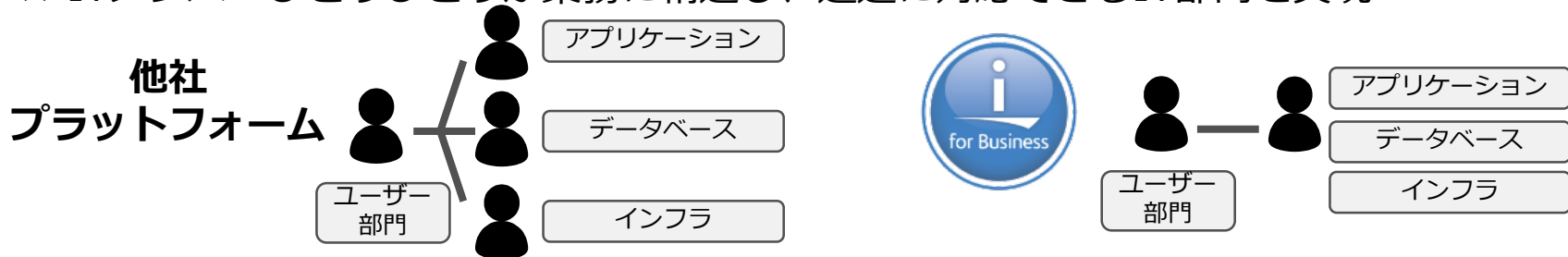
## IBM i がサポートするIT部門の働き方改革

☆ **更改時** バージョンアップのためのプログラム改修業務を、大幅削減

☆ **定常時** チューニング、脆弱性対応等 日々の運用業務を、大幅削減

## さらに業務変革スピードが向上

☆ ITメンバーひとりひとりが業務に精通し、迅速に対応できるIT部門を実現



# 立命館大学様 – x86 JAVA から IBM i RPGへ移行

## 立命館大学様のニーズ

1. 長期にわたりアプリケーションの互換性を維持できるプラットフォーム上での構築（都度都度のJavaバージョン更新に伴うアプリケーション全動作の多大な確認作業からの解放）
2. Web画面インタフェースと業務ロジックの完全分離（業務ロジックに手をいれることなくWeb表示レイアウト変更や操作性改善を繰り返したい）
3. 設置・運用管理対象となる物理サーバー台数の削減

## IBM iによる解決策

1. ビジネスロジックの生産性の最大化と、今後のアプリケーション互換性を維持できる、ILE RPG (フリーフォーム版) + IBM i
2. バックエンドプログラムとWebフロントを分離し、かつRPGのみで効率的かつリッチにWeb化するIBMアセット「XML-Bridge」の利用
3. LPAR管理技術により物理サーバーの台数削減を実現

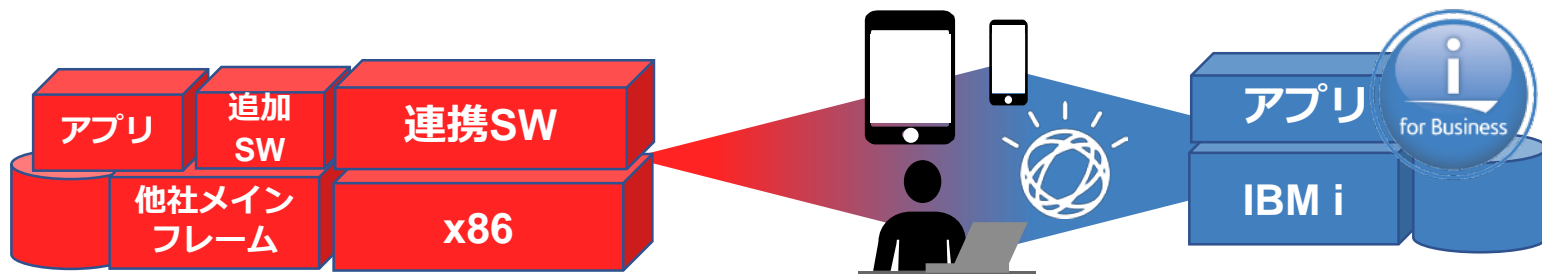
詳細は、11月のIBM i NEXT WEEK で

IBM i World 2018

検索

# 他社メインフレーム上のアプリ + DBも、 IBM i への移行をお勧めします

1. IBM i の一貫したアーキテクチャーと、世界15万社以上でのご利用が、お客様の未来を優れたコスト・パフォーマンスでサポート  
COBOL資産の安心・安全継承が低コストで将来にわたり可能です
2. IBM i は、常に新しいテクノロジーや統合・連携機能その内部に実装  
運用ワークロードを最小にしつつ、貴社イノベーションを実現します
3. IBM i は単一レベル・ストレージを搭載  
インメモリーDBを超越したハイ・テクノロジーを自動運転で提供します



# IBM i でCOBOLモダナイゼーション

高コスト、モダナイズ困難

低コスト (TCA & TCO)、簡単モダナイズ、簡単AI連動

他社メインフレーム / オフコン / x86

SAM/VSAM

S-JIS /  
EBCDIC/  
Unicode

DB

DC

帳票オーバーレイ

画面定義

COBOL85

変換ツール

JCL

OS

HW

IBM i

PF/LF(Db2)

対話型ジョブ制御

AFP/APW

画面DDS

COBOL

CLP

IBM i

Power Systems



IBM Watson



IBM Cloud



モバイル・デバイス

Windows/Linux  
アプリケーション



UNICODE列 / EBCDIC列  
混在可能  
Db2 for i



# リアルタイム連携の実現のために 開発環境もアジャイルに

知る

既存アプリケーション分析

創る/変える

アジャイル開発  
(あるいは  
DevOps)

つなげる

モダナイゼーション

# IBM i 30周年に寄せられたお客様からの声

その1



# IBM i 30周年に寄せられたお客様からの声

その2

# IBM i 30周年に寄せられたお客様からの声

その3

# IBM i 30周年に寄せられたお客様からの声

その4

# 未来を常に見据えた、IBM i と POWERのロードマップ

## IBM i ロードマップ

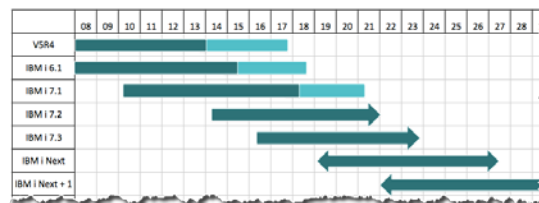
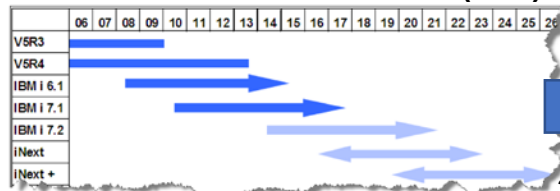
IBM i の新バージョンが発表されるたびに、ロードマップを未来にむけ更新

IBM i 7.2発表時のロードマップ (前回)

IBM i 最新ロードマップ

2018年3月16日 提供開始

**IBM i 7.3 TR4**



## POWERプロセッサ ロードマップ



2018年3月20日 出荷開始  
IBM i稼働 **POWER9**搭載サーバー

# IBM i の未来を ビデオでもご紹介しています



Tom Rosamilia  
Senior Vice President  
IBM Systems

トム・ロザミリア  
Senior Vice President IBM Systems担当  
上級副社長

<http://ibm.biz/i30fromtom>

“ IBM i は、発表から30年間 常に進化を続けてきました。  
この歴史は IBM i の揺るぎない軌跡であり、  
ともに歩んできたすべてのお客様、ユーザーグループ、  
ビジネスパートナー様とこの歴史的な年を  
お祝いしたいと思います。

IBM i と IBM Power Systems は、  
時代が求める最先端技術を実装、進化を続けることで、  
お客様のさらなるイノベーションとビジネス成長に  
これからも貢献してまいります ”

**Bob Picciano**  
SVP , IBM Cognitive Systems



本日まで参加の  
お客様限定  
(Web中継含む)

# IBM Db2 Web Query for i 個別相談会にお越しください

こんなお悩みありませんか？

- ✓ Web QueryでどんなBIができるの？
- ✓ タブレットをどう活用するの？
- ✓ ライセンスはあるけど使い方が解らない



解決に向けたアドバイスを行います

- ✓ 最新機能のご紹介
- ✓ タブレットとの連携デモ
- ✓ 導入手順のご案内 等

開催予定日：7 / 24(火), 26(木), 8/7(火), 9(木) @IBM本社 (箱崎) 事業所  
8/2(木), 3(金), 8(水), 10(金) @IBM大阪事業所

開催時間：10:00 - 11:30、13:00 - 14:30、16:00 - 17:30

- 会場の皆様: お手元のアンケートにてご希望の日程をお申し込みください
- Web参加の皆様: IBMi@jp.ibm.com までメールでお申し込みください

# 11月のIBM i NEXT WEEK @ 東京 & 札幌 においでください



## IBM i NEXT 2018

- 主催：日本アイ・ビー・エム株式会社（参加費：無料）
- 11月6日(火) @東京 日本IBM 本社事業所（箱崎）

グローバルのIBM iの責任者が来日し、世界の最新事例など、進化を続けるIBM iの未来について講演を行います。

詳細掲載予定URL: <http://ibm.biz/ibmiw2018> 準備でき次第、掲載いたします。

IT部門長

企画ご担当者

## User & IBM NEXT 2018 (呼称：NEXT 2018)

- 主催：全国IBMユーザー研究会連合会
- 11月7日(水)–9日(金) @札幌コンベンションセンター

毎年1,000名以上の参加者が集まるiSUC。今年からUser & IBM NEXT 2018と名称を変更し、次世代の新たな価値を作り出す大会としてスタートいたします。その最初の大会に、今年30周年を迎えるIBM iのお客様事例や最新ソリューションに関するセッションや展示を行います。

詳細掲載予定URL: <http://ibm.biz/ibmiw2018> 準備でき次第、掲載いたします。

全ての  
お役職・役割の方



# IBM i ソーシャルメディアのご案内

**Twitter : 日本IBM**

[https://twitter.com/IBM\\_JAPAN](https://twitter.com/IBM_JAPAN)

日本IBMのTwitterです。全てのIBM製品に関するTweetはこのアカウントから発信されます。



**Facebook : IBM Systems**

<https://www.facebook.com/IBMSystems/>

全世界向けのIBM Systems製品情報のFacebookです。英語と日本語で発信しています。



**Facebook : iユーザー情報共有ページ**

<https://www.facebook.com/iusersjapan/>

日本のIBM i ユーザーのための情報共有ページです。



**Blog : IBM Systems Japan Blog**

<https://www.ibm.com/blogs/systems/jp-ja/>

日本向けのIBM Systems製品に関するブログです。



**次世代を切り拓くIBM i 気鋭のアーキテクト特集**

<https://ibm.biz/BdYcFK>

「IBM i の好きなところ」「最近取り組んでいる技術や、構築したシステム」の2つのテーマで気鋭のアーキテクトに語っていただいています。



**YouTube : IBMJapanChannel**

<https://www.youtube.com/user/IBMJapanChannel>

日本IBMのYouTubeアカウントです。Power含む全てのIBM製品に関する動画をご覧ください。





## お客様事例ご紹介セッション

**ナンバープレート読取カメラからのリアルタイム顧客情報照会**

**- IBM i + Node.js WebSocket 通信の活用 -**

**九州三菱自動車販売株式会社 稲葉 剛 様**

**住商モンブラン流 高付加価値 『働き方改革』**

**- IBM i + Watson Analytics の活用 -**

**住商モンブラン株式会社 横田 昌宏 様**

ワークショップ、セッション、および資料は、IBMまたはセッション発表者によって準備され、それぞれ独自の見解を反映したものです。それらは情報提供の目的のみで提供されており、いかなる参加者に対しても法的またはその他の指導や助言を意図したのではなく、またそのような結果を生むものでもありません。本講演資料に含まれている情報については、完全性と正確性を期するよう努力しましたが、「現状のまま」提供され、明示または暗示にかかわらずいかなる保証も伴わないものとします。本講演資料またはその他の資料の使用によって、あるいはその他の関連によって、いかなる損害が生じた場合も、IBMは責任を負わないものとします。本講演資料に含まれている内容は、IBMまたはそのサプライヤーやライセンス交付者からいかなる保証または表明を引き出すことを意図したもので、IBMソフトウェアの使用を規定する適用ライセンス契約の条項を変更することを意図したものでなく、またそのような結果を生むものでもありません。

本講演資料でIBM製品、プログラム、またはサービスに言及していても、IBMが営業活動を行っているすべての国でそれらが使用可能であることを暗示するものではありません。本講演資料で言及している製品リリース日付や製品機能は、市場機会またはその他の要因に基づいてIBM独自の決定権をもっていつでも変更できるものとし、いかなる方法においても将来の製品または機能が使用可能になると確約することを意図したものではありません。本講演資料に含まれている内容は、参加者が開始する活動によって特定の販売、売上高の向上、またはその他の結果が生じると述べる、または暗示することを意図したもので、またそのような結果を生むものでもありません。パフォーマンスは、管理された環境において標準的なIBMベンチマークを使用した測定と予測に基づいています。ユーザーが経験する実際のスループットやパフォーマンスは、ユーザーのジョブ・ストリームにおけるマルチプログラミングの量、入出力構成、ストレージ構成、および処理されるワークロードなどの考慮事項を含む、数多くの要因に応じて変化します。したがって、個々のユーザーがここで述べられているものと同様の結果を得られると確約するものではありません。

記述されているすべてのお客事例は、それらのお客様がどのようにIBM製品を使用したか、またそれらのお客様が達成した結果の実例として示されたものです。実際の環境コストおよびパフォーマンス特性は、お客様ごとに異なる場合があります。

IBM、IBM ロゴ、ibm.com、Bluemix、Db2、IBM Cloud、IBM Watson、POWER、POWER8、POWER9、Power Systems、Watson、およびWatson Analytics は、世界の多くの国で登録されたInternational Business Machines Corporationの商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれIBMまたは各社の商標である場合があります。現時点でのIBMの商標リストについては、[www.ibm.com/legal/copytrade.shtml](http://www.ibm.com/legal/copytrade.shtml)をご覧ください。

Linuxは、Linus Torvaldsの米国およびその他の国における登録商標です。

WindowsはMicrosoft Corporationの米国およびその他の国における商標です。

JavaおよびすべてのJava関連の商標はOracleやその関連会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。